

平成 27 年 度


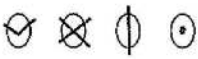
小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

家 庭

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 27 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) 
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) 

問 1 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 1 章 総説 2 家庭科改訂の趣旨」について述べたものである。小学校「家庭」の「改善の具体的事項」の記述として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 食事の役割や栄養を考えた食事のとり方、調理などの学習活動を一層重視する。
- イ 家族の一員として成長する自分を自覚し、日常生活に必要とされる基礎的・基本的な技能を身に付ける学習活動を一層重視する。
- ウ 家庭の機能と高齢者理解を目指した学習活動を一層重視する。
- エ 友人と協力して課題を見だし解決を図る問題解決的な学習を一層重視する。

問 2 次の文は、『小学校学習指導要領』(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)の「第 2 章 第 8 節 家庭」の「第 2 各学年の目標及び内容」[第 5 学年及び第 6 学年]について述べたものである。(1)から(5)に入る語句の組合せとして最も適切なものを、下表のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

衣食住や(1)の生活などに関する(2)な活動を通して、自分の(3)を自覚するとともに、(4)への関心を高め、その(5)に気付くようにする。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	家庭	体験的	責任	社会生活	喜び
イ	家庭	実践的・体験的	責任	家庭生活	喜び
ウ	家族	実践的・体験的	成長	家庭生活	大切さ
エ	家族	体験的	成長	社会生活	大切さ

問 3 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 2 節 家庭科の内容構成」について述べたものである。内容やその構成についての記述として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 内容構成に当たっては、生活における自分の成長を衣食住や家族の生活などの学習全体を貫く視点としてとらえるようにしている。

イ 家庭科の学習内容は、学年ごとに示されている。また、第 4 学年までの学習を踏まえ、2 学年間の学習の見通しをもたせるガイダンスを設けている。

ウ 中学校での学習に効果的に接続できるように内容の示し方が工夫されており、内容の記述の順序は、学習の順序を示している。

エ 暖かさ、風通し、明るさを小学校で押さえる基礎的・基本的な内容としてすべての児童に学習させることとしている。

問 4 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画作成上の配慮事項 (1) 題材の構成」について述べたものである。「指導計画作成上の配慮事項」の記述として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 学習に際しては、内容に関する児童の実態を多様な方法で的確にとらえ、育成すべき資質や能力が育つよう個に応じた指導を心掛ける必要がある。

イ 問題解決的な学習により地域に応じた課題を選択し追究するなど、弾力的な学習ができるようにする。

ウ 「A 家庭生活と家族」から「D 身近な消費生活と環境」の各内容項目に関連させるが、題材は独立した視点で構成する必要がある。

エ 学校や児童の実態を考慮し、「A 家庭生活と家族」から「D 身近な消費生活と環境」のねらいを踏まえて均等な授業時数を割り振る。

問 5 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い 3 実習の指導」について述べたものである。実習の指導についての配慮の記述として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 服装については、活動がしやすいように快適性に配慮したものを購入して着用するように指導する。

イ 調理用具は使用したらなるべく早く丁寧に洗い、よく水気を取るようにする。

ウ 熱源や用具、機械などを能率よく扱うことができるようにし、応用的な操作を身に付けるように指導する。

エ 生の魚や肉については、調理の基礎的事項を学習させた上で、扱いや衛生面での管理を行い用いるようにする。

問 6 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 A 家庭生活と家族」について述べたものである。〔2〕「家庭生活と仕事」の記述として誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 健康で快適に生きるためには、家庭生活をよりよくすることが大切であることにも気付くようにする。

イ 家族の一員として家庭の仕事や生活時間を工夫し仕事の手伝いができるようにする。

ウ 家族構成や家族の就業状況等、児童を取り巻く環境に十分配慮しながら取り扱うことが大切である。

エ 有効な時間の使い方とは、時間に区切りを付けたり、計画的に時間を使ったりするなど、時間を主体的に使うことができることである。

問 7 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 B 日常の食事と調理の基礎」について述べたものである。〔1) 食事の役割〕の記述として誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 規則正しい食事が生活のリズムをつくることや、朝食を食べることによって学習や活動のための体の準備ができることなどにも触れるようにする。

イ 栄養のバランスがよい食事をとることの大切さに気付くようにするが、色どりや味のバランスについては取り扱わないようにする。

ウ 楽しく食事をするためのマナーについては、はしや食器の扱い方などに気を付け、食べる速さに配慮し、会話を考えることなどが挙げられる。

エ 食事に対する感謝の気持ちを表すために、食事のあいさつをすること、供されたものを残さず食べるようにすることなどを通して、食事を大切にする意識を高めるようにする。

問 8 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 第 3 節 家庭科の内容 C 快適な衣服と住まい」について述べたものである。〔3) 生活に役立つ物の製作〕についての指導内容及び指導方法として誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 身の回りの生活に役立つ布を用いた物に関心をもって、製作する物を考え、形や大きさなどを工夫し、製作計画が立てられるようにする。

イ 目的に合っているか、使って便利であるか、好みの外観であるかなどを考えて、適切な形や大きさなどを工夫できるようにする。

ウ 目的に応じた縫い方があることを知り、それらを活用してその部分にふさわしい縫い方を考え、製作は全て手縫いとする。

エ 他教科や家庭生活などでの経験と関連させて、危険防止や安全点検の確認を習慣化できるようにする。

問 9 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 C 快適な衣服と住まい」について述べたものである。〔2) 快適な住まい方〕の記述として誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 整理・整頓や清掃の学習を通して気持ちよく生活するための住まい方に目を向けるとともに、家族の生活に進んでかかわろうとするようにする。

イ 床や窓などの汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方が分かり、状況に応じた清掃の仕方を考え工夫して適切な清掃ができるようにする。

ウ 空気の流れについては、夏季に涼しく過ごすため又は冬季における汚れた室内空気の入れ換えとしての通風に関する方法が分かり、効果的な通風の仕方を工夫できるようにする。

エ 採光の工夫については、窓の大きさや位置、窓ガラスの汚れ、天候の状況などによって、室内の明るさが異なることに気付くようにする。

問10 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 D 身近な消費生活と環境」について述べたものである。(1)から(5)に入る語句の組合せとして最も適切なものを、下表のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

物や金銭の(1)と買物などの学習を通して、(2)の生活を支えている物や金銭の大切さへの関心を高め、物の(3)や買い方に関する(4)な知識及び技能を身に付けるとともに、(5)を考え購入できる能力や実践的な態度を育てることをねらいとしている。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	使い方	家族	選び方	基礎的・基本的	計画的な使い方
イ	使い方	家庭	手入れの仕方	実践的・応用的	計画的な使い方
ウ	計画	家庭	選び方	実践的・応用的	衣食住の関連性
エ	計画	家族	手入れの仕方	基礎的・基本的	衣食住の関連性

問11 次の文は、核家族世帯に関する記述である。(1)から(5)の文章の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下表のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 第1回国勢調査(1920年)当時、普通世帯に占める核家族世帯の割合は約3割であった。
- (2) 核家族世帯の総数は、昭和初期から現在まで増加傾向が続いている。
- (3) 親と未婚の子どもから成る世帯は核家族世帯である。
- (4) 夫婦のみの世帯は核家族世帯ではない。
- (5) きょうだいのみ世帯は核家族世帯である。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	○	×	○	○	×
イ	○	○	×	×	○
ウ	×	○	○	×	×
エ	×	×	×	○	○

問12 次の文は、人口の高齢化の状況に関する記述である。誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 一般に高齢化率が7%を超えた社会を高齢化社会という。
- イ 日本の高齢化率は約2割(2013年)であり、前年よりも増加した。
- ウ 現在日本の65歳以上人口の男性対女性の比は約3対4となっている。
- エ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2012年)によると、日本の高齢化率は2060年には約4割に達して、国民の約2.5人に1人が65歳以上の高齢者となる。

問13 厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2015年版)(平成26年3月)」には、エネルギー産生栄養素バランス(%エネルギー)の指標が目標量として示されている。最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 炭水化物 50~65, たんぱく質 13~20, 脂質 20~30
- イ 炭水化物 50~65, たんぱく質 23~30, 脂質 10~20
- ウ 炭水化物 40~50, たんぱく質 25~35, 脂質 20~30
- エ 炭水化物 40~55, たんぱく質 25~35, 脂質 20~25

問14 次の文は、食品、栄養及び調理に関する記述である。誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ゆで卵の卵黄の周囲が暗緑色になることがある。これは、卵黄に含まれている鉄と卵白から発生した硫化水素が結合して、硫化第一鉄ができるためである。

イ トマトのカロテン含量は、可食部 100 g あたり 600 μ g 未満であるが、緑黄色野菜に分類されている。

ウ 精白米の主な成分は、胚乳に含まれるでんぷんで、たんぱく質や脂質などの栄養素も含まれている。

エ ヨーグルトは牛乳を乳酸菌により発酵させたものであり、カルシウム含量は牛乳の約 2 倍である。

問15 次の文は、衣服の材料や製品に関する記述である。(1)から(5)の文章の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下表のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 衣服の材料となる布を構成する繊維は、天然繊維と化学繊維に大別される。
- (2) 天然繊維はステープル、化学繊維はフィラメントから構成される。
- (3) ブロード、デニム、ギンガム、メリヤスは織物である。
- (4) 商品企画された既製服は、設計、裁断、縫製、仕上げの工程を経て生産される。
- (5) 回収された使用済みペットボトルは、再資源化して制服などのリサイクル製品として利用されている。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	○	×	○	×	○
イ	×	○	×	○	×
ウ	○	×	×	○	○
エ	×	○	○	×	×

問16 平成26年10月に日本工業規格(JIS)L0001として、「繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法」が制定された。当面、新規格は現行の規格(JIS L0217)と併用して使われることとなった。繊維製品を取り扱う記述として誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 現行の規格は6分類の表示記号、新規格は「5個の基本記号、及び基本記号と組み合わせて用いる幾つかの付加記号で構成する」と規定されている。
- イ 現行の規格の6分類の内、「アイロンの掛け方」、「絞り方」、「干し方」には、その処理や操作を行ってはいけない記号が規定されている。
- ウ 新規格には、タンブル乾燥とウエットクリーニングなどの記号が追加された。
- エ 新規格には、現行の「絞り方」の分類において、表示記号の規定はない。

問17 次の文は、日本の住まいの伝統的な防暑に関する記述である。誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 夏の夕方の打ち水は、涼を得る方法の1つであり、水が気体に変化するのに必要な潜熱を周囲から奪う原理を利用したものである。
- イ 窓の外側にツル性の落葉植物を設置することは、直接室内に入る日射を遮るだけでなく、テラスからの輻射熱も軽減できる。
- ウ 温度差による換気は、室内外の風圧が駆動力となるため、郊外など建物密度が低い敷地条件において有効な自然換気方法である。
- エ 民家の茅葺屋根は、深い軒が日差しを遮るとともに厚い茅屋根が断熱材としても機能している。

問18 次の文は、快適な住まい方の工夫に関する記述である。最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 冬季は室内の乾燥を防ぐために、相対湿度が室内よりも高い外気を積極的に室内へ取り入れることが必要である。
- イ 冬至では正午頃に南面の受ける日射量が最大となることから、冬季では南面の日照をいかに確保するかが重要である。
- ウ 暗順応に比べ明順応の方が順応時間は長い。玄関では急に暗い室内から明るい室外に出ることがあるので、屋外の床面の段差などへの対策が必要である。
- エ 室内の空気を暖める放射熱を利用した暖房方法は、床暖房や電気カーペットなどのように低い温度で快適感が得られる。

問19 次の文は、消費生活に関する記述である。(1)から(4)の文章の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下表のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 消費支出を規定する要因として、ライフステージや家族形態、収入額、資産、慣習、地域などが挙げられる。
- (2) 2013年度の消費生活相談内容は「契約・解約」に関するものが「販売方法」よりも多い。
- (3) クーリング・オフとは、契約後、商品やサービスを不要と判断した場合、契約内容照会を請求できる権利である。
- (4) 国際消費者機構が提唱した消費者の五つの責任には、公正な取引が実現されるように主張し、行動することが含まれている。

	(1)	(2)	(3)	(4)
ア	×	○	×	×
イ	○	×	○	×
ウ	○	○	×	○
エ	×	×	○	○

問20 次の文は、環境に配慮した生活に関する記述である。(1)から(4)の文章の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下表のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 水質汚濁の指標に用いられる BOD 値とは、微生物が有機物を分解する際に必要な炭素要求量であり、COD 値とは酸素要求量である。
- (2) 1992年にブラジルで開催された「環境と開発に関する国連会議」では、リオ宣言の採択を行った。
- (3) 倫理的消費とは、生活主体としての個人が社会や他者に配慮した消費行動をとることにより、持続的な社会の形成に寄与するという考え方である。
- (4) グリーンコンシューマーとは、環境に配慮して購買決定を行う消費者を意味している。

	(1)	(2)	(3)	(4)
ア	×	○	×	×
イ	○	×	○	×
ウ	○	×	×	○
エ	×	○	○	○